

平群町立学校情報機器整備事業に係る 各種計画

令和6年6月4日

平群町教育委員会

【平群町】

端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	1,104	1,111	1,108	1,079	1,054
② 予備機を含む 整備上限台数	1,269	1,277	1,274	1,240	1,212
③ 整備台数 (予備機除く)	1,104	1,111	1,108	1,079	1,054
④ ③のうち 基金事業によるもの	736	740	738	719	702
⑤ 累積更新率	100%	100%	100%	100%	100%
⑥ 予備機整備台数	165	166	166	161	158
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	165	166	166	161	158
⑧ 予備機整備率	13.00%	13.00%	13.03%	12.98%	13.04%

※①～⑧は未到来年度等にあつては推定値を記入する

(端末の整備・更新計画の考え方)

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：1,300 台

○処分方法

- ・使用済端末を公共施設や福祉施設など地域で再利用 : 台
- ・小型家電リサイクル法の認定事業者へ再使用・再資源化を委託 : 1,300 台
- ・資源有効利用促進法の製造事業者へ再使用・再資源化を委託 : 台
- ・その他 () : 台

○端末のデータの消去方法 ※いずれかに○を付ける。

○自治体の職員が行う

- ・処分事業者へ委託する

○スケジュール(予定)

令和7年 9月 処分事業者 選定

令和7年10月 新規購入端末の使用開始

令和7年12月 使用済端末の事業者への引き渡し

○その他特記事項

(「⑤ 累積更新率」が令和10年度までに100%に達しない場合は、その理由)

【平群町】
ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合（％）

確保ができています学校数	4校
総学校数に占める割合	100％

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

（1）ネットワークアセスメントによる課題特定スケジュール

全校生徒が一斉に端末を利用した場合のネットワーク状況、また今後文部科学省CBTシステム（MEXCBT）による全国学力・学習状況調査等で大容量の通信が発生することが予想されることから、アセスメントを実施し、令和7年3月までに課題のある学校についての課題を特定させる。

（2）ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

ネットワークアセスメントの結果を踏まえ、令和7年4月から順次改善策の検討を開始し、令和7年12月までに対象校における改善策を完了させる。

（3）ネットワークアセスメントの実施等により、既に解決すべき課題が明らかになっている場合には、当該課題の解決の方法と実施スケジュール

【平群町】 校務DX計画

本町においては、奈良県域の統合型校務支援システムに、モデル地域として参加するなど、早期より導入を図り利用及び活用を推進してきた。その導入において、その当時文科省の推奨であった、いわゆる教育ネットワークの三相分離を採用し、ネットワークを学習系、外部学習系、校務系に分離し、校務支援システムを学習系のインターネット環境から完全に分離した、クローズドの環境にある、奈良県域で契約したプライベートクラウドを利用したシステムを採用、利用を進めてきた。

また、併せて各学校からの報告書などの様式を定めている条例や規則を見直し、押印やペーパーでの報告の見直しを進めているところである。現在、報告の大部分は校務支援システムを利用した電子報告に置き換わっている。また、校内の会議や教育委員会における会議も、ペーパーレスを推進しオンラインでも可能な会議となるよう、形態を改めている。

しかし、ネットワークの三相分離により、保護者や児童・生徒との情報のやり取りを、校務支援システムと連携させることが難しく、データの相互活用に課題を持っている。各学校では、GIGA端末を活用し出欠連絡や健康状況の把握等を行うため、いろいろとアプリの活用を工夫し、取り組んでいるところであるが、その情報を校務支援システムに、シームレスに取り込み利活用するまでには至っていない。

この状況をクリアするには、ゼロトラストベースの新しいネットワークを整備し、校務支援システムもセキュリティを担保できる、オープンクラウドベースのものに変更する必要性を感じている。そのため、ネットワークの調査を実施し、現行のネットワークの問題点を洗い出し、将来に向けてのネットワーク帯域を確保できるように、校務支援用の端末の入れ替えや、新しい統合型校務支援システムの選定を踏まえて、ゼロトラストベースのネットワークの実現に向けて検討を進めている。

また、条例や規則の見直しを今後も進め、クラウドツールの活用を進めることで、教育委員会と学校、保護者、児童・生徒間の情報交換が、よりスムーズでセキュアなものになるように、検討を進める予定である。あわせて、教員の中で教育DXを率先して実践する教員（エバンジェリスト教員）を任命し、意見交換を行うとともに研修や実践のリーダーとなってもらっている。今後も先進的な取り組みを、エバンジェリスト教員を核として進めていく予定である。

【平群町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

Society5.0時代を生きる子供たちにとって、教育におけるICTを基盤とした先端技術等の効果的な活用が求められる。本町では1人1台端末の環境を実現し、高速で安定したネットワーク環境の中で、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現するとともに、情報モラルや情報セキュリティに関してもしっかりと身につけた児童生徒の育成を目指します。

2. GIGA第1期の総括

着実に進めてきたICT化を、令和2年度からの「GIGAスクール構想」により、1人1台のiPad端末の整備を行うとともに、すべての学校のネットワーク整備と無線LANの導入、インターネット接続の高速化と順次進めてきた。併せて、教員のICT研修を充実させ、学びの文房具として、リモート授業、協同学習、デジタルドリル等のアプリを導入し、その活用を進めてきた。また、同時に統合型校務支援システムを導入し、学校との様々な情報のやりとりを見直し、教育のDX化を進めてきた。

しかしながら、家庭との連携を深め、子どもたち一人一人に自ら学ぶ力を育てることについては、教員の取り組み状況も踏まえて、今後も取り組みを深化・発展させていく必要があると認識している。誰でも簡単にICTを利用した情報交換や、「学びの保障」が実現されるよう取り組みを進めます。

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末の積極的活用

1. ICT教育の質を担保するため、教員のICT活用能力の向上を推進し、定期的な研修や学習の機会を設けます。
2. ICT教育の推進のため、ICT教育支援員を各校に派遣し、サポート体制を充実させます。
3. デジタル教科書の導入を進め、学校で活用する際の支援を充実させます。

個別最適・協働的な学びの充実

1. 児童生徒が自分で調べる場面や、児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において、積極的に1人1台端末の利用を推進します。
2. 教職員と児童生徒がやりとりする場面や、児童生徒同士がやりとりする場面において、積極的に1人1台端末の利用を推進します。
3. 児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において、積極的に1人1台端末の利用を推進します。

学びの保障

1. 希望する不登校児童生徒への授業配信を充実させます。
2. 希望する児童生徒への1人1台端末を活用した教育相談が出来る環境を整えます。
3. 外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に、1人1台端末を活用し翻訳アプリやチャット、メール等の利用を推進します。
4. 障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じてICTを活用した支援に取り組みます。